



空きキャパシティの利活用

都市経営学部都市経営学科 教授 根本 修平

キーワード

空きキャパシティ利活用、ビジョン策定、小さな拠点、公共的

該当するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

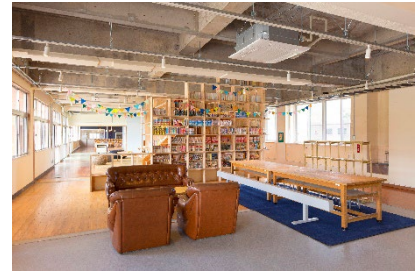


1 研究内容

空き家や廃校などの空き公共施設のほか、歩道や公園といった未利用空間の利活用について研究しています。対象の現況を把握し、その地域の「これから」と対照して利活用について検討します。多くの場合は、「公共的」な利活用が志向されるため、地域や行政の方々との対話（コミュニティ形成）を通してビジョンを模索し、この過程の中で具体的に利活用するための運用方法なども合わせて検討します。一連の過程を論文などにまとめて社会に還元していますが、実際に場所を形成するなど、具体的に利活用することを目標として取り組んでいます。



塩や(空き家の利活用)2017



きららの楽校(白男川小学校跡利活用プロジェクト)2018



道の駅舞ロード IC 千代田トイレ改装 2018



まちよーる(歩道空間利活用、木質交流スペース)2022

2 連携可能性のある研究分野, 又は, これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

・地域の将来を考える分野のほか、福祉的な視点で生活を考える分野などと連携できます。

これまでの連携実績

- 1)塩や、2017年、NPO・地域住民と連携、南九州市で空き家を観光拠点施設として再生
- 2)きららの楽校、2018年、さつま町・地区住民と連携、閉校した小学校の利活用を住民参加WSを通して小さな拠点として再生・管理運営
- 3)道の駅舞ロード IC 千代田トイレ、2018年、広島県・北広島町・地域住民と連携、利用調査と住民参加WSを通して公衆トイレを更新
- 4)まちよーる、2022年、民間事業者・福山市と連携、社会実験をもとに歩道内に木質交流スペースを整備
- 5)まちの赤ちゃん休憩室、2024年、民間事業者・地域住民と連携、調査に基づいて空き店舗を授乳室に再生